

平成24年度

事業活動報告書



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

I. 法人の概要

(平成25年3月31日現在)

| | |
|------------|---|
| 法人の名称 | 公益財団法人吉野川紀の川源流物語 |
| 設立年月日 | 平成14年4月1日 平成24年4月1日名称変更し、移行したことにより設立 |
| 定款に定める目的 | この法人は、「樹と水と人の共生」を目指し、吉野川・紀の川の源流部を拠点に、その自然的価値、文化的価値を大切にし、流域をはじめ都市部の人々にこれを伝え、共に考え、行動するため、体験学習・交流活動を通じて、広く啓発や環境教育に関する事業を行う。そして、これに必要な拠点施設や関連公共施設の維持管理・運営に関する事業を行い、源流域の自然環境保全活動に努める。これらの活動により、流域をはじめ都市部の人々と水源地域を結び、もってそれらの人々の公共利益に寄与することを目的とする。 |
| 定款に定める事業内容 | この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。 (1) 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業 ① 「吉野川源流－水源地の森」体験学習プログラムの提供 ② 森づくり体験学習プログラムの提供 ③ 体験学習を通じた環境教育の実施及び支援 ④ 水源地域の環境保全にかかわる人材の育成 (2) 流域交流・啓発にかかわる事業 ① 水源地域の自然及び文化を介した交流行事の実施 ② 水源地域の環境保全の普及啓発のための行事等の開催、印刷物等の刊行、電子情報媒体の作成 (3) 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業 ① 水源地域及び流域における参加型観察調査会の実施 ② 「吉野川源流－水源地の森」自然実態調査の実施 ③ 源流部における斜面崩壊地での対策実験及び経過観察の実施 (4) 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業 ① 展示を通じて情報発信を行う施設の管理・運営 ② 源流部での体験活動の拠点となる森とこれに附帯する施設の管理 (5) 学習教材や、啓発関連物品等の販売 (6) 他団体からの依頼にもとづいてこの法人が構築する情報や技術によって対応可能な業務の受託 (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業 2 前項第1号から第4号までの事業は、公益目的事業とし、奈良県内で行う。 |
| 主たる事務所 | 〒639-3553 奈良県吉野郡川上村大字迫 590 番地の2 |

| | |
|-------------|---|
| <p>役員等</p> | <p>評議員（五十音順）</p> <p>井上 正崇（大阪工業大学学長） 上林 哲士（川上村教育委員会次長） 内原 久夫（和歌山市水道局長） 浦西 勉（龍谷大学教授 元奈良県教育委員会） 大西 廣長（川上村議会議長） 岡本 勝年（和歌山県企画部地域振興局地域政策課長） 霜上 民生（一般社団法人近畿建設協会理事長） 辻本 浩司（奈良県水道局長） 中山 悟（奈良県地域振興部長） 野上 義己（橋本市上下水道部長） 東谷 八宗（川上村議会総務文教委員長） 森内 太（川上村地域振興課長）</p> <p>理事（五十音順）</p> <p>栗山 忠昭 代表理事・理事長（川上村長） 松村 悦治 代表理事・副理事長（川上村副村長） 坂口 泰一 業務執行理事（川上村水源地の村づくり課参事） 清水 啓敏（奈良県地域振興部地域政策課長） 辻谷 達雄（前 森と水の源流館館長） 西久保 智美（コミュニティライター） 橋本 裕行（奈良県立橿原考古学研究所事業計画課長） 宮口 侗迪（早稲田大学教授） 横田 岳人（龍谷大学准教授）</p> <p>監事（五十音順）</p> <p>辰巳 八郎（川上村監査委員） 中島 誠（税理士）</p> |
| <p>主な会議</p> | <p>定例理事会 6月 7日（前年度事業報告及び決算の件ほか） 臨時理事会 6月21日（代表理事選定の件） 8月12日（臨時評議員会招集の件） 8月29日（代表理事選定の件 ほか） 定時評議員会 6月20日（前年度事業報告及び決算承認の件 任期満了による理事選任の件 任期満了による監事選任の件 評議員選任の件 ほか） 臨時評議員会 8月22日（理事選任の件 ほか）</p> |

II. 事業の状況

| 公益事業Ⅰ | 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業 | | | |
|---|------------------------|-----|--------|-------------------------------|
| 吉野川・紀の川の源流及び水源地域の自然環境や文化を資源とした環境学習及び体験等のプログラム実施を通じて、環境保全や保護についてともに考え、行動するきっかけを提供する。そして流域をはじめ都市部の人々と水源地域の交流を促進し、これらの地域の環境に対する意識の向上ならびに環境保全に寄与する事業。 | | | | |
| | 時期 | 回数 | 参加数等 | 概要 |
| 水源地の森ツアー（一般公募型） | 11月 | 1回 | 22名 | 「水源地の森」を案内（4・7月は中止） |
| 第12回森と水のワークショップ | 7月 | 1回 | 14名 | |
| 団体（企業含む）研修等での利用 | 通年 | 45件 | 1,454名 | 水源地の森散策や森づくり体験など |
| 環境教育支援（学校対応） | 通年 | 83件 | 4,729名 | 小学校から大学までの見学案内及び出張源流教室 |
| 源流学の森づくり | 5・12・3月 | 5回 | 25名 | 一旦伐採された二次林での森林整理の作業や「源流学」実技体験 |

| 公益事業Ⅱ | 流域交流・啓発にかかわる事業 | | | |
|---|-----------------|-----|--------|--|
| 吉野川・紀の川流域をはじめ都市部の人々と相互に交流することによって、源流及び水源地域の自然環境や文化的価値を見出し、大切に守り育てていくことを目的とした啓発イベントや講座を実施する。そして自然環境について高い意識をもった人材育成につなげることで、これらの地域環境保全ならびに向上に寄与する。 | | | | |
| | 時期 | 回数 | 参加数等 | 概要 |
| 開館10周年記念「誕生日の宴」 | 4月29日 | 1回 | 250名 | 森と水の源流館にて祝賀イベント |
| 吉野川紀の川源流まつり（ふれあいデー） | 9月9日 | 1回 | 500名 | 川上村等の共催で、流域団体の出展によるバザーを開催 |
| 源流のつどい | 6・1月 | 2回 | 93名 | 「ホテルの夕べ」及び「氷瀑ツアー」 |
| 夏休み（館内）プログラム | 7～8月 | 16種 | 362名 | 丸太切り体験、石標本づくりほか |
| 流域連携各地へのPRキャラバン | 通年 | 32回 | 1,361名 | 和歌山市役所ホールほかで開催 |
| 10年目の再発見！ はじまりの郷で「自然×歴史」複合フォーラム | 7月16日 10月22日 | 2回 | 360名 | 川上村立図書館と共催で、ネイチャフォトグラフ家内山りゅう氏、古事記研究家三浦佑之氏の講演会とフィールドツアー |
| 川上村環境基本計画推進業務 | 通年 | 8回 | 100名 | 住民参加による環境クラブ活動と役場公共施設職員研修の企画・実施 |

| 公益事業Ⅲ | 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業 | | | |
|---|------------------------|----|------|--------------------------------|
| 吉野川・紀の川流域の源流部における自然的価値及び文化的価値を大切にするため、流域をはじめ都市部の人々にも参加を求めながら調査・研究を行い、その成果の発信を行うことを通じて、これらの地域の環境保全ならびに向上に寄与する。 | | | | |
| | 時期 | 回数 | 参加数等 | 概要 |
| 吉野川紀の川しらべ隊 | 5・6・7・ 8月 | 4回 | 143名 | 参加体験型でのコケ観察、水生生物観察、大台ヶ原観察、湿地観察 |
| 水源地の森自然環境調査 | 7・11月 | 4回 | 14名 | 後期区域の哺乳類調査等 |
| 専門家による調査・研究 | 4・6・7・ 8・11月 | 8回 | 24名 | 下層植生調査、菌類、景観、爬虫類・両生類調査 |
| 「芽吹きของ砦」プロジェクト | — | — | — | 6・7月の大雨により崩壊しており追加設置を中断 |

| 公益事業Ⅳ | 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業 | | | |
|--|---------------------|-----|--------------------|-----------------------------------|
| 水源地域における環境保全の啓発や環境教育を行う拠点となる施設やフィールドを一体的に維持管理及び運営を行うことで、地域環境保全ならびに向上に寄与する。 | | | | |
| | 時期 | 回数 | 参加数等 | 概要 |
| 「森と水の源流館」の管理 | 通年 | — | 利用者 13,335 名 | 日常の維持・管理、運営。定期点検、清掃、補修 企画展等の運営 |
| 「吉野川源流—水源地の森」の管理 | 通年 | 26回 | — | 散策路周辺の見回り・点検、補修 (入山者444名) |
| 「水源地の森交流施設」の管理 | 通年 | 28回 | — | 水源地の森に付帯する休憩・管理施設の見回り・点検、補修 |

| | |
|---|---------------------|
| 収益事業Ⅰ | ミュージアムショップ事業 |
| 拠点施設において、訪問の記念となる品とともに、源流及び水源地域の支援・PR並びに自然環境の保全・啓発等に寄与する関連商品の販売を行う。 | |
| 概要 | |
| オリジナル読本・ポストカード、地域の自然、歴史・文化・伝承の書籍、環境に配慮した製品（洗剤など）、自然観察用品（ルーペなど）森の手入れで出た小枝の活用（小物やクラフトキットなど）ほかの紹介・販売 その他 | |

| | | | |
|---|-------------|-------|--|
| 収益事業Ⅱ | 受託事業 | | |
| 他団体からの依頼にもとづいて当財団が構築する情報や技術によって対応可能な業務を受託し行う。 | | | |
| | 委託者 | 時期 | 概要 |
| 和歌山市民の森づくり整備管理業務委託 | 和歌山市 | 7～12月 | 拡張1haの半分の地ごしらえを含む維持管理 |
| 和歌山市民の森づくり体験学習業務委託 | 和歌山市 | 10月 | 1回は警報発令により中止 もう1回も荒天につき雨天プログラム |
| 水のつながりプロジェクト実施等に係る業務 | 川上村 | 6～11月 | 源流と平野部の小学校交流事業の企画・実施、報告書作成 |
| 大滝ダム試験湛水完了記念式典のパンフレット制作及び印刷等に係る業務 | 川上村 | 6月 | 大滝ダム試験湛水完了記念式典での配布パンフレットの制作・印刷 |
| 大滝ダム竣工式典パンフレット制作及び印刷外業務 | 川上村 | 1～3月 | 大滝ダム竣工式典での配布パンフレットの制作・印刷、式典アトラクションの企画・実施 |

公益事業Ⅰ 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業

一般公募や団体の要望により企画する「水源地の森ツアー」のほか、源流地域の自然や文化にふれる体験型ツアー形式などによる研修の受け入れを行った。

【一般公募型 水源地の森ツアー】

天候に恵まれず、4月・7月代替コースに変更し実施。11月のみの開催となった。



【第12回 森と水のワークショップ】

年に一度、元気いっぱい水にふれあう。今回は沢登り等の専門事業者と提携し実施した。



【団体研修等での利用】

関西電力労働組合の森づくり（左）、JICA中南米12か国青年環境管理研修（右）ほか



【環境教育支援（学校対応）】

森林環境学習の受け入れ（左）、や「出張源流教室」での出前授業（右）などを実施



【源流学の森づくり】

間伐作業や二次林での林内整理などの作業とともに、山小屋暮らし体験を楽しむ。



公益事業Ⅱ 流域交流・啓発にかかわる事業

源流地域の魅力を介して、都市部の人々との交流をはかる催しの開催や、各地に出かけてのPR展開を通じた普及啓発に取り組んだ。

【開館10周年記念 「誕生日の宴」】

4月29日の誕生日祝賀イベント。一般参加者とこれまでつながってくれた人々が集った。



【吉野川紀の川源流まつり（ふれあいデー）】

24年度から川上村との共催とし、規模を拡大し開催。さらに多くの流域関係団体が参加。



【源流のつどい】

6月に「ホタルの夕べ」(左)、1月に「氷瀑ツアー」(右)開催し、地元の人々とも交流。



【夏休み（館内）プログラム】

夏休み期間中「宿題応援！」を掲げて、野草の押し花葉（右）や石の標本（右）など創作体験プログラムを実施。



【流域連携各地へのPRキャラバン】

大和の水がめと（奈良）県営水道展（左）、環境月間での和歌山市役所ロビー（右）など、流域各地でのPR・啓発活動を実施。



【10年目の再発見！はじまりの郷で「自然」×「歴史」複合フォーラム】



森と水の源流館開館10周年を記念し、社団法人近畿建設協会支援によって、ネイチャーフォトグラファ内山りゅう氏講演会+フィールドワーク、古事記に詳しい立正大学三浦佑之教授による講演会を開催した。



【川上村環境基本計画推進業務】

重点プロジェクトの促進として、役場・公共施設職員の研修会や、村民を対象とした学習会を開催した。



公益事業Ⅲ 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業

流域をはじめ都市部の人々の参加を得て体験型の調査を行った。

【吉野川紀の川しらべ隊】

川上村内ほか、吉野山、大台ヶ原、五條市での観察会を実施し、広域連携と誘客を図った。



【芽吹きの岩プロジェクト】

これまでに設置した土留木柵や植生マットが、6・7月の大雨による斜面崩壊で流出した。24年度では、新規設置は行っていない。



公益事業Ⅳ 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業

【「森と水の源流館」の管理】

館の維持管理、案内や企画展・歳時展示など運営管理を行った。



【「吉野川源流—水源地の森」の管理】

【「水源地の森交流施設」の管理】

森林内の散策路及び付帯する休憩施設や管理等の定期見回りや適宜補修作業を実施した。



収益事業Ⅱ 受託事業

【和歌山市民の森づくり体験学習業務】

荒天等により森づくり体験は実施できず、川上村内での学習プログラムを実施。



【水のつながりプロジェクト実施等に関する業務】

前年度川上村に「おかげ米」の提供があった、大和平野土地改良区の農家との交流・体験事業の運営を受託。



【大滝ダム竣工式典パンフレット制作及び印刷外業務】

パンフレット制作・印刷及び、竣工式典内での語り



パブリシティ（新聞ほか掲載記事）

水の森と流源館

「公益法人」スタート

名称変更、通年で事業

開館10周年を迎える一吉野川紀の川源流物
川上村宮の平の「森と語」は今年、公益財団
水の源流館」（財団法 法人に移行して新たな



公益財団法人として再スタートした「森と水の源流館」川上村宮の平

スタートを切った。

同館は平成14年4月にオープン。吉野川・紀の川の源流の自然や水源地の大切さなどを考える拠点施設として、環境分野の活動に取り組んできた。

国が進める公益法人制度改革に伴って公益性が認められ、不特定多数の人々の利益の増進に寄与する「公益財団法人」への移行が認定された。財団は「公益財団法人吉野川紀の川源流物語」に名称が変わり、寄付税制上の優遇措置などが受けられ

る。

同館は今後、水源地の森ツアーなどの環境学習・体験プログラムの提供▽流域交流・啓発▽現流域の自然や歴史の調査・研究▽拠点公共施設の管理・運営一などの事業に通年で取り組む。

同館は「住民や企業、団体と連携して水源地域の環境保全を図り、村や流域の公共利益に寄与したい」と話している。

24年度には10周年記念事業として、29日に「誕生日の宴」を開催（午前11時～午後3時）。自然と歴史の複合フォーラムや同館3階川上劇場の映像リメイクも計画している。

じもとぴ

まち・ひと・わだいW

森の再生に協力 関電労組と協定



大谷一二・川上村長（左端）と協定書を取り交わす関電労組役員一川上村役場

川上 川上村の森の再生に関西電力労働組合が協力することになり、「森林保全活動に関する協定」を17日、村と結んだ。

大阪府の本店と大阪南の地区本部で、労組員は計約6千人。吉野川源流部にある「源流学の森（34畝）のうちの約1畝の山林を「関労かわかみの森」と命名。少なくとも今後5年間、労組が年に3、4回、ボランティアを募って雑木の間引きや木で土留めを造る活動を行い、森からの土砂流出を防ぐ。森を管理する公益財団法人「吉野川紀の川源流物語」によると、原生林の皆伐後にカシやシキミなどの雑木が自然に生えた二次林で、間引きをすることで地面に太陽光が届き、下草や低木が成長して土砂の流出を抑えるという。

労組の弓庭秀恭・本店地区委員長は「奥山でこんな環境破壊が起きているのを初めて知った。若い組合員を中心に活動を広げたい」と話した。

森林保全で協定

川上村と 関電労組 間伐や作業道補修

川上村の森林環境保全に取り組むため、村と関西電力労働組合の本店地区、大阪府地区本部は17日、協定を締結した。組合員(両地区計約6千人)が約8年間にわたって村内の山林を訪れ、間伐や作業道の補修などの保全活動をする。

村は平成23年度に「環境メッカ創発プロジェクト」を発足し、企業や団体との協働による水源環境保全活動の展開を図っている。労組側は地域貢献活動の一環として、普恵バンクを設立し、各地

区本部単位で「関労ふれあいの森」を設置。本店地区と大阪府地区本部は、ボランティアで森林保全活動に参加してきた川上村に設置することになった。協定の期間は平成29年3月末まで。同村三之谷地区にある、厚生林の伐採後にできた二次林(「源流亭の森」1134杉のうち、1杉を「関労かわかみの森」として、村が無料で貸与する。組合員が年数回程度訪れ、間伐や下草刈り、作業道の補修などの作業をするほか、入社5年目までを対象にした研修も実施

する。

協定書の調印式で、

大谷三村長は「村だけでは力が及ばない。

ご協力いただきうれしく思います」、関電労組本店地区の弓屋秀森委員長は「若い人を中心に未永く活動していきたい」と語り、大阪府地区本部の小松隆執行委員長とともに大谷村長と協定書を取り交わした。



リニューアルされた映像展示の1場面―川上村追

映像展示を再編集

「森と水の源流館」開館10周年

29日に記念イベント

川上村追の「森と水の源流館」は、開館10周年を記念して、館内の映像展示「川上村劇場」を一部リニューアル。子ども向けの短い番組などができた。

3番組のうち、村の歴史と自然を紹介した各15分の2番組を10年ぶりに再編集し、「水源地の村づくり」(約14分)と「たたらクンとはじまりの郷の人々」(約7分)を作った。

水と森を守る「川上宣言」(平成8年)や原生林740畝の公有化など水源地の森の保全など水源地の森の保

全と活用、情報発信、下流域との交流などを解説。子ども向けの番組には妖怪キャラクターが登場し、伝統行事や郷土食など山村の暮らしを紹介する。

時間の制約が大きい学校遠足などに対応。上西由恵主事は「村の活動から、子どもたちに何かを感じてもらいたい。源流館をきっかけに、自然に親しんでほしい」と話している。

29日午前11時から、10周年イベント「誕生日の宴」を開く。当日は施設を無料開放。千本つき(餅つき)や山菜てんぶらの振る舞い、餅まきが行われる。問い合わせは同館、電話0746(52)0888。

地域に生きる 10

工原街道推進協議会広報担当
コミュニケーションライター
西久保 智美

北海道などで外資による水源地の森林売買の問題を受け、各地では水源地を守る保全条例の施行など対策を取り始めた。奈良県南部を流れる吉野川は、川上村が約10億円かけて「水源地の森」を購入し、源流を守り続けている。この森を管理し、自然や水の大切さを伝え続けてきた「森と水の源流館」が今月29日、開館10周年を迎える。事務局長の尾上忠大(ただお)さん(47)は「これからはじまり」と話す。

尾上 忠大さん 森と水の源流館 事務局長

「ていこう」という願いと決意を込めた「川上宣言」を全国に向けて発信。この宣言に基づき、源流館が開館された。当時、環境計画などのコンサルタント業務をしていた尾上さんは、この宣言文に心が響いた。「住民や村が今後目指すべきビジョンや行動の目的が明確に描かれていて、川上宣言を具現化することに魅力を感じました」と振り返る。源流館に転職した尾上さん

「はじまり」の10周年



公益財団法人となったのを機に、事務局長に就任した尾上さん

んは、「エコ」や「リサイクル」など環境問題がまだ話題になっていない時代、まずは源流館の存在を知ってもらおうと発信強化に努めた。その矢先、県が平成18年から森林環境税を導入、森林環境教育に力を注ぐようになったことも後押しとなり、

源流館としての活動の立ち位置がはっきりしたという。吉野川・紀の川流域の学校や団体などの体験学習の場として、水源地の森でフィールドワークを行い、源流の自然や水源地を守る大切さを分かりやすく伝える取り組みのほか、住民や流域の生産者との意見交換を通じて、きれいな水を流す責任を学ぶ取り組みも行っている。当初に比べ、相互に水に対する意識も変わってきたという。

「いろんな人に助けてもらいながらの10年でした。地道な努力が広がり、川上宣言があらためて指針となり、内外の人たちにも広がっているのがうれしい」と尾上さん。今月から、公益財団法人として新たな一歩を踏み出した。「今後より一層、信頼と責任を持って、皆さんと一緒に水源地域の環境保全を図り、公共利益に寄与する活動に努めていきたい」と力強く語る。新たな「はじまり」を告げる「開館10周年・誕生日の宴」は29日午前11時から始まる。

11月1回掲載

西久保智美の 奈良つれづれ

第2回 水源地の 覚悟



奈良、和歌山の女性グループの交流会

女の子たちの健やかな成長を願い折り紙のお雛様を竹の舟に乗せ、吉野川に流す。夏は鮎。5月下旬になると太公望たちが早朝からわれ先にと釣り糸をたらず。秋になれば落ち鮎が下り、冬になれば和紙の原料である楮がすすがれる清流でもある。

さてこの滔々と流れる吉野川をたどると、源流である「水源地の森」に出会うことができる。場所は川上村の奥地にある三之公地区。ここには手つかずの広大な自然の森が500年以上も昔からそのままの姿で残されている。

四方を山々に囲まれた奈良県で、滔々とした流れを見せる吉野川。流域に住む人たちとともに四季の「暮らし」の中で息づく川でもある。春は、五條市南阿田町で行われる「流し雛」。



三之公の自然
(森と水の源流館 提供)

この水源となる森を守るために、川上村は約10億円を投じて約740haの天然林を購入し、守り続けている。平成21年には村独自の環境基本条例を定め、それに基づく環境基本計画を制定した。その活動の一環で住民の女性グループらが吉野川(紀の川)の中下流域の農業の方々と交流をする。訪れたのは和歌山県紀の川市で特産品の桃を使った加工品を製造する「桃りゃんせ夢工房」。参加者は桃ジャムなどを一緒につくった後、早速、意見交換。川上での取り組みを話したり、また同夢工房からは「きれいな水のおかげで、美味しい桃がとれる」、「汚れた水だと桃の木が病気になる」たり枯れたりするが、いつもきれいな水だから安心」と感謝の言葉が述べられたり。参加者の1人は「川上に住む者として

きれいな水を流す責任を感じました」と。直接話を聞くことで自分たちが流す1滴が、下流に住む人たちへの1滴につながることを実感していた。

また吉野川の下流にある和歌山市内の小学校が川上村へ環境体験学習で訪問。小学生からは、岩からしみ出た川の流れにつながる最初の1滴に感動を覚える。「こんなにゆつくりで小さい1滴目が、吉野川、紀の川という大きな川になることを知ってとても面白い。1滴の大切さを知った」と感想を寄せた子も。水源地の森では、水の大切さを肌で実感する

水量豊かな吉野川には、水源地の村としての「川上村」の覚悟や、多くの人の思いが集まり、大河となって流れている。その豊かで清らかな1滴を守るためにも流域に住む私たちも行動をする時期ではなからうか。

にししくほ ともみ

1975(昭和50)年、五條市生まれ。帝塚山短期大学卒。会社の広報職を経て、タイ国のドゥアン・プラティープ財団でボランティア活動。帰国後、地元新聞社の楳原、五條・吉野支局記者として15市町村を担当。現在はコミュニティライター、工房街道推進協議会の広報担当として地域の情報を発信

川上・源流館

「誕生日の宴」盛況

県内外の250人交流

10周年皆で祝おう

千本づきや餅まき

水源地を守る川上村の取り組み発信する拠点施設「森と水の源流館」の開館10周年を祝い、同村迫の同館で29日、「誕生日の宴」が行われた。県内外から約250人が集い、交流した。

平成14年4月にオープンし、来館者数は約15万人を超えた。尾上忠大事務局長は「今日をスタートに、また時間の流れをつむいでいきたい」とあいさつした。

「よいしょら、どっこい」の掛け声で千本づきも行われた。同村東川地区の伝統行事の音頭に合わせ、親子らが約3分の長いスギのきねを高く上げて餅をついた。

山菜てんぷらのふるまいや館内ガイドツアー、餅まきなどもあった。同村立川上小学校6年、森口拓哉君(11)は「裏山でよく遊びます。村の自然を残して

いきたい」と話していた。



ひとつの臼を囲み、8本のきねで餅をつく
参加者=29日、川上村迫

水源地の村 川上

大滝ダム試験湛水完了

きょう 記念式典



大滝ダム概要
大滝ダムは、伊勢湾台風（昭和34年）による甚大な被害が契機となり、国土交通省による建設が進められた。周辺との景観にも配慮された多目的ダムで、総計川水系では洪水調節が可能な唯一のダムとされる。

大滝ダム試験湛水の経緯
大滝ダムの試験湛水は、平成15年に一般実施されたが、川上村自給地にて電線が切断されるなどしたため、増設工事などを要した。同工事は昨年11月までに完了し、12月から再度試験湛水を開始した。

「水源地の村づくり」第2弾へ
川上村は、大滝ダムの完成により、水源の保護と水質の向上を図るため、試験湛水期間中に、村内に設置された大滝ダムを、村内に設置した。この大滝ダムは、試験湛水期間中に、水源の保護と水質の向上を図るため、試験湛水期間中に、村内に設置された。

ダム完成後
川上村は、平成15年に大滝ダムが完成し、試験湛水期間中に、水源の保護と水質の向上を図るため、試験湛水期間中に、村内に設置された。



大滝ダムクレスト4門の試験湛水

大滝ダム建設と「水源地の村づくり」のあゆみ

- 昭和34(1959)年 伊勢湾台風
昭和35(1960)年 大滝ダム予備調査開始
昭和37(1962)年 大滝ダム実施計画着手
昭和40(1965)年 大滝ダム建設事業着手
昭和56(1981)年 大滝ダム建設の着工
平成16(1988)年 大滝ダム本体工事着手
平成2(1990)年 大滝ダム本体工事完了
平成5(1993)年 大滝ダム本体デザイン決定
平成8(1996)年 大滝ダム本体コンクリート打設開始
平成10(1998)年 大滝ダム本体コンクリート打設完了
平成11(1999)年 大滝ダム本体コンクリート打設完了
平成14(2002)年 大滝ダム本体コンクリート打設完了
平成15(2003)年 大滝ダム試験湛水開始
平成17(2005)年 大滝ダム試験湛水完了
平成20(2008)年 大滝ダム試験湛水完了
平成24(2012)年 大滝ダム試験湛水完了

水源環境の保全
さらなる向上を

- 今年度の交流行事
川上村立図書館・森と水の源流館 開館10周年記念講演会
かわかみ遊水フェスタ2012
源流まつり 吉野川・紀の川ふれあいデー

大滝ダムの役割
大滝ダムの役割は、洪水調節と水質浄化です。試験湛水期間中に、水源の保護と水質の向上を図るため、試験湛水期間中に、村内に設置された。

試験湛水完了に万感の思い

川上村長 大谷 一
試験湛水完了に万感の思い
大滝ダムの試験湛水が完了しました。この試験湛水は、水源の保護と水質の向上を図るため、試験湛水期間中に、村内に設置された。

川上村立図書館・森と水の源流館 開館10周年記念講演会

日本の美しい水・川上村の自然の魅力
「レンズに写った清流の宝物」
ネイチャーフォトグラファー 内山 りゅう氏
2012年7月16日(祝)
14:00~15:30(開場 13:30)
川上総合センター やまぶきホール
参加無料(お茶代は別途)



水は、森で生まれる。
「自ら活動して他を動かすは水なり」
「静かに流れて、激しい勢力を有するは水なり」
「常に己の進路を求めてやまざるは水なり」
「自ら潔くして、他の汚濁を洗い、しかも清濁併せ容るるは水なり」
「洋々として大深を満し、発しては雲となり雨と変じ」
「凍つては玲瓏たる氷雪と化す。しかもその性を失わざるは水なり」

7月16日(月)



■豊かな自然を次世代へ、山の日・川の日」に県内各地でイベント 豊かな山と川を次世代に継承していくと県が定めている「山の日・川の日」にちなみ、県内各所でイベントが開かれた。大型ダムを擁する水源地・川上村では、ネイチャーフォトグラファーの内山りゅうさんがフィールドツアーや講演会を通じて、子どもたちに自然の大切さを説いた＝写真。

内山さんは淡水生物などにこだわった図鑑や写真を多数出版。テレビ番組「情熱大陸」などの出演経歴がある。

この日、内山さんは同村を流れる川で水生生物の観察などを行うフィールドワークや、講演会を行い、県内の豊かな自然を次世代に伝える重要性を説いた。

写真家 内山さん講演

16日、奈良県川上村

奈良県川上村教委などは、村図書館の開館10周年を記念して、16日午後2時から、川上総合センターやまぶきホール(同村宮の平)で、白浜町の写真家内山りゅうさん(49)を講師に招き、講演会を開く。参加は無料だが申し

込みが必要。

川上村は大台ヶ原山(1695㍎)北西側にあり、面積の95%を山林が占める林業の村。中でも吉野川(紀ノ川)の源流部にある三之公川流域一帯には、手つかずの天然林が残されており、村はこの貴重な天然林を後世に残すため、約740㍎を購入し「水源地の森」として保存している。

それを取り巻く水環境の撮影をライフワークにしており、特に淡水の美しさや重要性に注目している。講演会は「レンズに写った清流の宝物」と題して、川上村の貴重な自然やそこに生きる生物などを紹介。紀ノ川の源流域であり、和歌山の人も奈良の森に目を向けてほしい」と来場を呼び掛けている。

内山さんは和歌山県を中心に、田んぼや川にすむ生き物、申し込み、問い合わせは川上村教委内村図書館(0746・52・0144)へ。



講師の写真家内山りゅうさん

12.7.17 奈良新聞

豊かな自然、守り伝えて

川上の「源流館」図書館10周年 講演会で魅力再確認

川上村宮の平の「村立図書館」と「森と水の源流館」の開館10周年を記念した講演会が16日、同所の川上総合センターやまぶきホールで開かれた。

ネイチャーフォトグラファーの内山りゅうさんが「レンズに写った清流の宝物」と題して講演し、約180人が聴き入った。

内山さんは世界各地で撮影した淡水の写真を紹介した上で、日本には豊かな水資源があることを紹介。「水源

地を守ることは意義がある」と述べた。

川上村の原生林については「太陽が見えないくらい木が茂り、豊かな水が流れているような場所は、世界でも例を見ない」と強調。

「今ある自然を子どもたちに伝えることが大事」と呼び掛けた。



川上村の自然の魅力について解説する内山さん16日、同村宮の平の川上総合センターやまぶきホール

地を守ることは意義がある」と述べた。

川上村の原生林につ

いては「太陽が見えないくらい木が茂り、豊

かな水が流れているよ

うな場所は、世界でも

例を見ない」と強調。

「今ある自然を子ども

たちに伝えることが大

事」と呼び掛けた。

長いそうめん流しを楽しむ子どもら 4日、川上村西河のあきつの小野公園



水辺の自然、美味堪能

川上で「遊水フェスタ」

水辺に集い、ふれあ「スタ2012」(村情)川上村の「遊水フェ」報連絡会主催)が4日、

同村西河のあきつの小野公園を主会場に行われ、家族連れらが夏の1日を楽しんだ。

水生生物観察会やアマゴつかみなどのイベントやシカ肉カレーなどの特産品も販売。村内各施設ではガラスアートなどの手作り体験ができ、多くの子どもらが参加した。

青竹を長さ50センチにすぎ、谷水を落とすとしたそうめん流しは一度に100人が参加でき、「冷たい」「おいしい」と大人気。昨年もある来た橿原市の酒井菜々花ちゃん(3)は1週間前から心待ちにしていたといい、母親の操さん(39)は「自然の中で食事をする機会はほとんどないので大喜びです」と話していた。

奈良の生き物 もっと知ろう

県立図書館で「教室」



北川准教授(右)からニッポンバラタナゴの説明を受ける子どもら＝奈良市大安寺西1丁目の県立図書館

奈良市大安寺西1丁目の県立図書館で26日、「奈良の生き物の教室」が開かれた。約100人の親子らが参加し、県内に生息する絶滅危惧種の生物などについて、楽しみながら知識を深めた。

槽の前では、絶滅危惧種のニッポンバラタナゴについて説明、子どもらが真剣な表情で観察していた。

奈良教育大付属小の井上龍一教諭(右)は、県が特定希少野生動物植物に指定しているナゴヤダルマガエルの見分け方など、県内にいるカエルの特徴を模型などを使って紹介。同小4年の鳥居そらさん(10)は「カエルはあまり好きではなかったけど、いろんなことを知ることができて面白かった」と話した。

夏休みあとわずか まだ間に合うおすすめ施設

夏休みもあとわずか。家族での思い出づくりや宿題の総仕上げに役立つ、おすすめの施設を紹介する。

●**橿原市昆虫館**(同市南山町) 約1千点の標本や化石を展示、約500匹のチョウが舞う放蝶温室もある。今年「世界のカブトムシ・クワガタムシ展」を開いており、ツノや腹部の長さが世界一のヘラクレスオオカブトや、体が虹色に輝くニジイロクワガタなどが見られる。

また、今月中旬に御所市で見つかった全長113mmのオオサンショウウオも一時保護しており特別展示中。同館は「珍しい生物を目の前で見

てもらえれば、忘れられない思い出になるはず」。

●**森と水の源流館**(川上村迫) 吉野川の水源がある川上村の源流の森を巨大パノラマ映像で体験できるシアターや、木の実や川の生物を紹介するコーナーがある。

夏休み期間中は、吉野杉の丸太切りや虫の折り紙をつくる特別体験も実施している。担当者は「普段私たちが使っている水の流れを理解してもらおうとともに、村の自然のすば

らしさを知ってもらいたい」と話す。

●**奈良市防災センター**(同市八条5丁目) 関東大震災や阪神大震災など、過去の代表的な地震の揺れを体験できるほか、台風を想定した風(風速20m/s)や煙が充満した部屋からの避難なども体験できる。

また、映像による学習やクイズコーナーもあり、防災に必要な知識を身につけることができる。

間伐材。パワーのツリー

川上村「森と水の源流館」28日まで点灯

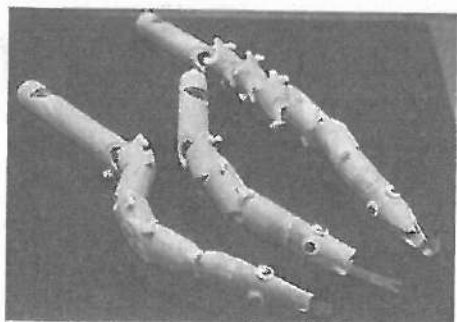
自然の大切さを伝える川上村迫の「森と水の源流館」に、間伐材のクリスマスツリーがお目見えした。28日まで、午後8時まで夜間ライトアップしている。

今年の特テーマは「間伐材。パワーを集めたピラミッドツリー」。スギとヒノキの間伐材を組み合わせて土台を作

間伐材でできたクリスマスツリー11日、川上村迫の「森と水の源流館」



の展示を控えた。今年には国道169号沿いに設置し、「明るく、あたたかい気持ちになってもらいたい」と同館。休館日の水曜は点灯しない。



こまどり

○…来年のえと「巳」にちなんで、橿原市畝傍町の県立橿原考古学研究所は22日、「竹へび(笛)」の工作教室を開催。14日まで参加者を募集する(必着)。

○…竹へびは伊勢参りの土産として作られた竹製のおもちゃ写真。教室では川上村の森と水の源流館職員の成瀬匡章さんを講師に迎え、製作に挑戦する。午前10時から午後1時から。各回定員20人。参加無料。

○…往復はがきに住所や氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、希望時間を記入し〒634-0065、橿原市畝傍町50の2の同博物館「竹へび(笛)」を作ろう」係に申し込む。問い合わせは同係、電話0744-(24)1180。

奈良

.....
 ニュースのご連絡先
 奈良支局
 〒630-8283
 奈良市深井町44-2
 0742(23)5331-3
 FAX 0742(27)2658

.....
 駐在
 電話 0744(29)3065
 電報 0745(22)1827
 配付のご用紙
 0742(24)2214
 広告のご用紙
 0742(32)11220
 折込済みのご用紙
 0742(35)7030
 印刷の申し込みにあ
 り
 0120(34)3733

読者の「私の好きな奈良」ベスト20の集りに協力し、奈良まほろばソムリエ協会の最上級認定者で組織する「奈良まほろばソムリエ友の会」(小北博孝会長)有志が集んだベスト20がまとまった。県内各地からソムリエ一押しの風景が並んだ。

ソムリエベスト20は、奈良県で連載中の「なら再発見」執筆メンバーが、それぞれ思い入れのある風景や、あまり一般のガイドブックなどには取り上げられないものの、訪れる価値があるスポットを別で選んだ。このうち、甘樫丘からの眺望や東大寺二月堂の真参道、山辺の道は、読者の人気も高い風景だった。また、葛城古道や寧生寺の五重塔、佐保川の桜、龍王山からの眺望も複数の読書か

ら候補に挙がっている。山辺の道以外にも桂置や町並みも選ばれた。鹿野の石畳は、生駒市と大塚町東大塚町を結ぶ街道の峠付近にあり、江戸時代に鹿野と佐佐木が鹿野を購す。土佐街道も江戸時代、高取城の城下町として発展した通りだ。自然豊かな風景も挙げられた。西大台ヶ原は吉野飛騨園立公園内にあり、原生林で覆われている。紅葉の季節は特に映えるという。高見

山は三雲真勢に位置する1200以上の山。万葉集にも歌われたゆかりの地とされる。吉野山の土流に位置する川上村は森谷や滝が数多く、源流ならではの自然に出合える。和歌山県との境界にあり、高い山が連なる野追川村。放射冷却で発生した霧が溢りまわることある。霧海が息を奪われることもある。このほか、山添村のいわくらは、村に居住する巨匠で、良の筆跡に関連するスポット。西吉野の南朝遺跡は、後醍醐天皇や南朝ゆかりの地がある。宇太水分神社はその名の通り、水の守り神。秋の例大祭は御懸のかつぎ手の風勢の良い掛け声が響く。



▷下◁

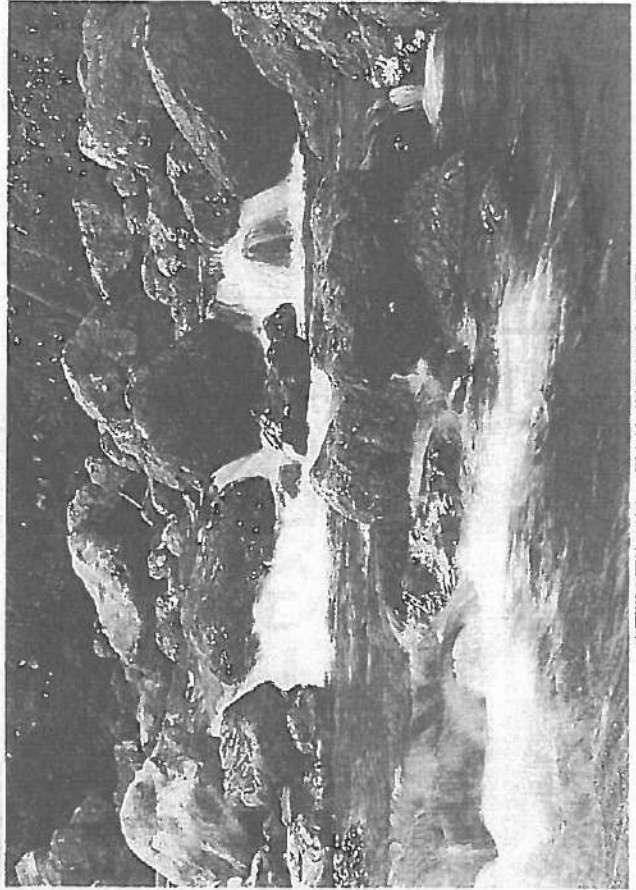


朝日に輝く霧海(野追川村)(山田高司撮影)

数多くの隠れた名所

まほろばソムリエのベスト20

- 佐保川の桜(奈良市)
- 東大寺二月堂への真参道(奈良市)
- 鹿野の石畳(生駒市)
- 山添村のいわくらは
- 慈光院の庭園(大和郡山部市)
- 龍王山からの眺望(天理市)
- 山辺の道(桜井市、天理市など)
- 寧生寺の五重塔(宇陀市)
- 宇太水分神社の秋祭り(宇陀市)
- 竹内街道の町並み(葛城市)
- 葛城古道(御所市、葛城市)
- 甘樫丘からの眺望(明日香村)
- 土佐街道の町並み(高取町)
- 高見山の霧氷(東吉野村)
- 五條新町の町並み(五條市)
- 西吉野の南朝遺跡(五條市)
- 川上村の源流の森(川上村)
- 野追川村の霧海(野追川村)
- 西大台ヶ原の紅葉(上北山村)
- 玉置神社の杉(十津川村)



吉野川の源流の流れ(川上村)(鉄田恵男さん撮影)